

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	公明党
代表者名	畑尻 宣長

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 6年 1月 15日提出

活動年月日	令和 5年 7月 11日 (火) ~ 7月 14日 (金)	
氏名	土谷直樹	
用務先 及び 内 容	1 7月11日	用務先 沖縄県 竹富町 内 容 頑張る地域応援プロジェクト事業について
	2 7月12日	用務先 沖縄県 石垣市 内 容 石垣島スポーツコミッションについて
	3 7月13日	用務先 沖縄県 那覇市 内 容 「おくやみコーナー」について
	4 7月14日	用務先 沖縄県 浦添市 内 容 浦添市てだこ未来応援員について
	備 考	

政務活動調査報告書

視察日	令和5年7月11日（火）
視察場所	沖縄県 竹富町
視察内容	「頑張る地域応援プロジェクト事業」について
視察者名	土谷直樹
町の概要	面積：334.4 km ² 人口：4,291人 人口密度：12.83人/km ² 世帯数：2,588世帯 経常収支比率：78.8% 実質公債費比率：6.7%

<竹富町の概要>

竹富町は、琉球列島の最南端八重山郡に属し、石垣島の南西に点在する有人島9つ、無人島7つから構成され、総面積334.4 km²、東西約42km、南北40kmの広範囲に及び、町役場を八重山経済の中心地の石垣市に置く。豊かな自然と古い歴史を持ち、伝統文化や文化財を大切にしている。町の目標は「日本最南端の大自然と文化の町」。非核平和のまち宣言をしており、核兵器の廃絶と平和な社会を求めている。町民憲章や老人憲章も制定。農業、畜産業、漁業、観光業などが主要な産業。島ごとに特色があり、美しい海や自然を楽しめる。

竹富町は、町長と副町長、議長と副議長、12人の議員で構成され、職員数は150人。

<竹富町「頑張る地域応援プロジェクト事業」についての概要>

沖縄県竹富町は、離島の特性を活かした観光振興や地域資源の保全・活用などに取り組んでいます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、観光客の減



少や産業の停滞など、町の経済や社会に大きな打撃を受けています。そこで、竹富町は「頑張る地域応援プロジェクト事業」を立ち上げました。この事業は、やる気のある地域が自由に独自の施策を展開することにより、「魅力ある島々」、「魅力ある地域」に創造するよう、地域独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む町内在住の個人、地域公民館、団体等に対し、地域創造交付金を交付し、地域の隠れた資源を再発掘し、魅力ある地域に取り組む機会を提供することにより、住民自治の発展、更なる地域活性化に資することを目的としています。



<交付の内容>

(1) 地域の魅力を発掘する個人

10人×100千円=1,000千円※1人最高10万円まで

(2) 地域の魅力を発掘する公民館

2団体×500千円=1,000千円※1団体最高50万円まで

(3) 地域の魅力を発掘する団体等

2団体×500千円=1,000千円※1団体最高50万円まで

<取り組み内容>

文化講演会「竹富島の歴史と文化」

記念誌編集委員会

・いんのた村の歴史・文化等について後世に引き継ぐための記念誌の制作を年長者と若者の交流をきっかけとし、地域の活性化につなぐ、いんのた村の文化財についての解説、いんのた会館の変遷・年表を後世に残していく



<所 感>・・・土谷直樹

竹富町で取組んでいる「頑張る地域応援プログラム事業」内容について竹富島「いんのた会館」で学ばさせていただきました。過疎化が進む島民にとって島の伝統を後世に伝えていくための事業であり、数年先ではその歴史や文化を語れる人も過疎化により減っていく可能性がある。全島が西表石垣国立公園に指定されており、集落景観の町並みも重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。この他にも重要文化財（旧与那国家住宅）、重要無形民俗文化財（竹富島の種子取）、重要伝統的建造物群保存地区（竹富町竹富島）、登録有形文化財（西棧橋・なごみの塔）などがあり、記念誌制作や文化の継承、保存は重要だと感じました。

以上

政務活動調査報告書

視察日	令和 5 年 7 月 12 日 (水)
視察場所	沖縄県 石垣市
視察内容	石垣島スポーツコミッションについて
視察者名	土谷直樹
市の概要	面積：229.15 km ² 人口：49,510 人 人口密度：216.06 人/km ² 世帯数：25,534 世帯 経常収支比率：89.3% 実質公債費比率：7.0%

<石垣市の概要>

石垣市は、那覇から南西へ約 430km の東シナ海に浮かぶ、沖縄本島、西表島に次いで県内 3 番目に大きな島。八重山列島の政治、経済、産業、交通の中心地であり、沖縄県八重山事務所（旧・八重山支庁）が所在するほか、数々の島から成り立つ隣接自治体である竹富町も町役場を石垣市内に置いている。

<これまでの課題>

行政が事業の実行主体を担っていたことから、その活動にはさまざまな制限や限界があった

課題 1

誘致の際、受け入れ窓口が統一されていないことから、多くのニーズに応えきれていない

課題 2

誘致が目的となり、様々な来訪者に対してスポーツと景観・環境・文化など地域資源と掛け合わせたコンテンツの提供ができていない



実行主体
石垣市

主な取組
プロ野球キャンプ
大会・合宿の誘致

<石垣島スポーツコミッションのねらいと効果>

ねらい1

スポーツコミッションを設立し、窓口の統一を図り、合宿・キャンプ誘致の拡大

ねらい2

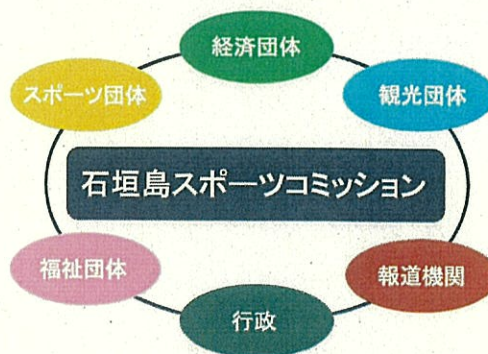
観光コンテンツへ誘導し、まちづくりや地域活性化に繋げる取り組みを推進

効果1

スポーツ関連団体のみならず、観光・商工関連団体等で組織し、様々な機関・団体からの賛同及び参画・協力を得ながら新たな島の楽しみ方を提供することで、地域経済波及効果及び雇用を生み出す

効果2

島全体をスポーツで盛り上げることにより社会的効果（青少年の健全育成、地域への誇りや愛着、国際交流による相互理解など）も生み出し、持続的な島の維持・発展に寄与する



<具体的な取り組み>

スポーツツーリズムコンテンツ創出事業

世界中に愛好者がいる「空手」を題材として、インバウンド拡大に繋げることを目的に「空手ツーリズム」の創出に取り組む。

スポーツ合宿・キャンプ誘致推進事業

スポーツ合宿・キャンプ誘致について、ワンストップ窓口となるウェブページを作成。スポーツ施設だけでなく観光名所や宿泊施設、世界的にも有名なダイビングスポットをはじめとするアクティビティ、地元産業、物産情報などを有機的に連携させる。ガイドブックを作成し、様々なニーズに応えることで、さらなる誘致につなげることを目的とする。

スポーツフェスティバル開催事業

島民のスポーツへの意識と意欲の向上が図られるよう趣意を凝らしたフェスティバルを実施する

スポーツ交流事業

インバウンドの回復もあり、スポーツを通じた交流も海外へと広げることで異文化交流や青少年の健全育成を図ると同時に、石垣市やコミッションの認知度の向上を図る



e スポーツ活用推進事業

石垣島の地域資源であるアウトドアスポーツ（ロードバイク、トレッキング等）の魅力を最大化するためのアプリケーションを開発し、完成後はアプリを活用したアウトドアスポーツにより誘客。アプリの開発には地元の高校生に参画してもらい、若い世代の発想を取り入れるとともにIT人材の育成を目指し、Uターン就職などの雇用を生み出す。



<中央運動公園各施設の見学>

石垣市中央運動公園の各施設の活用について

野球場・・・両翼 99.5m 中堅 122m、収容人数 8,000 人 ロッテがキャンプ地として利用

第2野球場・・・両翼 95.0m 中堅 120m、収容人数 12,000 人 ナイター施設

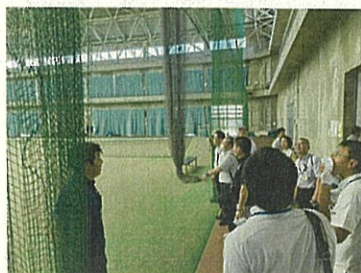
水泳プール・・・競技用 50m プール

庭球場・・・砂入人工芝へ改修(9面)

ブルペン、打撃ゲージ・・・練習用

陸上競技場・・・400m全天候型トラック

総合体育館・・・メインアリーナ 1,950 m²、サブアリーナ 1,222 m²



<所 感>・・・土谷直樹

石垣市では快適なスポーツ環境の提供と世界やプロ基準のもてなしを広く紹介するスポーツ誘客ブランド「スポーツウェルカム石垣島」を立ち上げ、プロスポーツ大会や国際大会、スポーツ合宿等の積極的な誘致を行っています。

スポーツコミッションとは、地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり・地域活性化を推進していく組織のことを言い、スポーツ合宿やスポーツイベント、スポーツツーリズムなどスポーツを通しての交流促進で地域活性化や経済貢献等を目指しています。プロ野球用に作られたブルペン・打撃ゲージの施設は地元のチームなども有効活用されており、未来のプロ選手がこの地から生まれる可能性も十分にあると思います。キャンプ誘致により経済効果は6億5000万円。マラソン、トライアスロン開催でも4億円の経済効果。今後、空手やeスポーツ誘致にも取り組みを拡大していくとのことです。本市においてもプロスポーツやeスポーツ、自転車競技などに対し、スポーツコミッションを進めていくにあたり取組みの参考となりました。

以上

政務活動調査報告書

視察日	令和5年7月13日（木）
視察場所	沖縄県 那覇市
視察内容	「おくやみコーナー」について
視察者名	土谷直樹
市の概要	面積：41.42 km ² 人口：315,539人 人口密度：7618.03人/km ² 世帯数：157,970世帯 経常収支比率：84.6% 実質公債費比率：8.5%

<那覇市の概要>

那覇市は沖縄県の政治・経済・文化の中心であり、また県外や周辺離島とを結ぶ那覇空港や那覇港を擁することから沖縄県の玄関口としての役割も担っている。

沖縄本島南部に位置し県庁所在地となっている中枢中核都市。

面積は日本の全都道府県庁所在都市の中で最も小さく、人口密度は首都圏と近畿圏と政令市の行政区を除くと全国で最も高い。

那覇は古来より琉球王国の首都である首里の貿易港として栄える。

1. 事業概要

おくやみコーナーは、身近な方がお亡くなりになった後、遺族の方が市役所で行う手続きについて、おくやみ支援員がワンストップでの手続き受付や申請書作成補助、窓口案内などを行う事業。

2. 背景と目的

これまで遺族の方はどのような手続きが必要で、どの窓口に行けばよいのかわからないことが多く、複数の窓口で何度も同じ内容を記載する等、時間も労力もかかり、大きな



負担となっていた。お亡くなりになった後、遺族が行う必要な手続きを1つの窓口においてワンストップで行い、担当窓口を案内する場合でも、必要な手続きの特定や申請書等の作成を補助することで、負担軽減を図り、遺族に寄り添った支援を目指す。

3. おくやみコーナーでできること

【ワンストップ受付】

おくやみコーナーでは、多くの方が必要となる国民健康保険や後期高齢者医療制度、介護保険等の手続きを中心にワンストップで受付を行う。

【必要な手続きの案内】

ワンストップ受付以外につきましては、各担当窓口をご案内する。

<導入までの流れ>

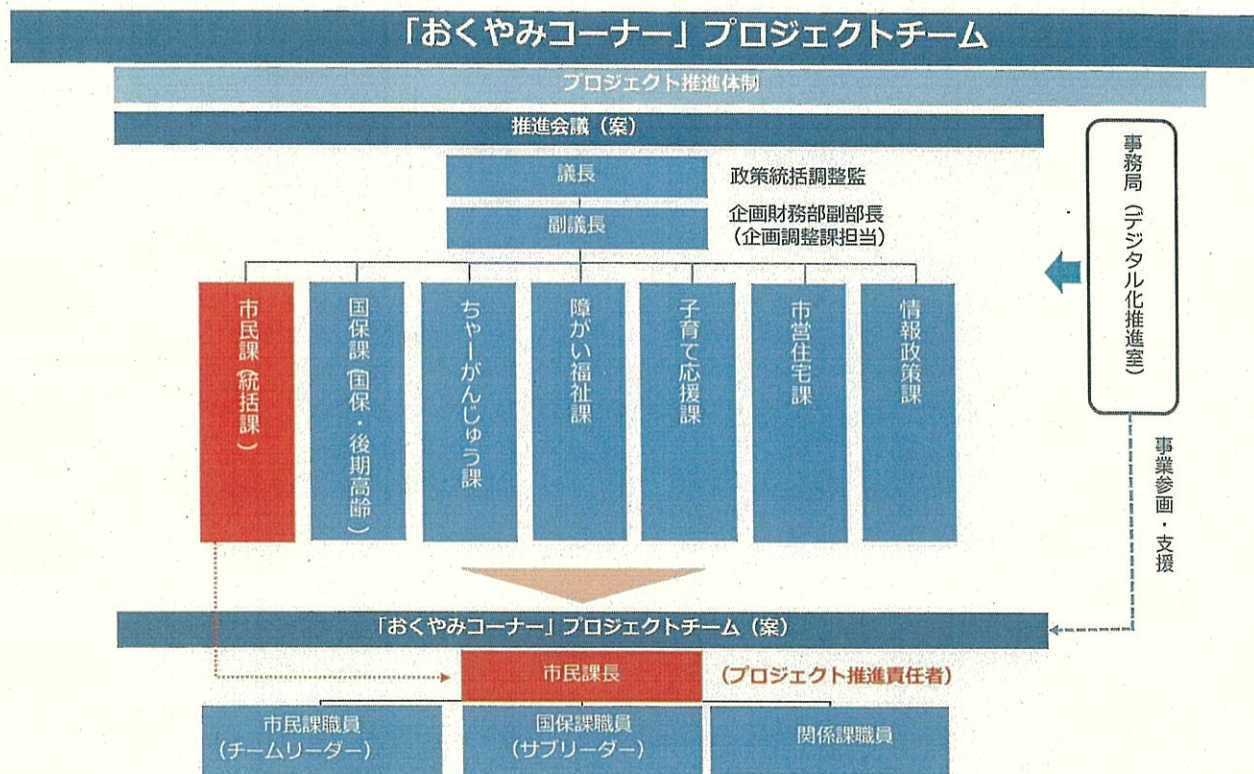
1. 導入前の課題

令和2年度に全国で169自治体まで設置自治体が急増していて、那覇市でも設置について検討していた。

課題1 課を超えて全庁的に検討する場がなかった

課題2 業務負担（新しい窓口）のさらなる増加

2. プロジェクトチーム（PT）の発足



★「行政サービス向上分野」に該当するプロジェクトとして実施

令和3年5月、デジタル推進会議にて「おくやみコーナープロジェクトチーム」が発足し、全庁横断的に検討可能となった。

中堅、若手職員の参加により前向きかつ建設的な検討が可能となった

「市民目線」と「職員目線」での検討

サービスは「市民目線」でワンストップ実現

運用は「職員目線」で作業負担の少ないシステムでの運用を実現

3. 基本方針の検討

より利便性の高いサービスを目指す

おくやみコーナーで一括して手続きを行えるようにするなど、遺族の負担を最大限に軽減できる利便性の高い仕組みを検討する。(ワンストップサービス等)

わかりやすく、利用しやすいサービスにする

死亡に関する手続きをわかりやすくまとめ、遺族が手続きに迷うことがないサービスにする。

おくやみ専用コーナーを設け、事前予約を行う等、利用しやすい環境を整える。

職員の負担にならない仕組みを構築する

担当課・担当職員の負担にならないよう、システム等を活用した運用を検討する。

4. 基本方針の決定

利便性の高いサービス

- ・73手続きの内、29手続きについてワンストップ受付することが決定

「おくやみコーナー」のサービスレベル

■おくやみコーナーのサービスレベル

主要6課	主な手続	ワンストップ 可能手続
ハイサイ市民課	世帯主変更届、未支給年金請求等 計11手続	-
国民健康保険課	資格喪失届、保険証返還、葬祭費請求等 計14手続	11手続
ちゃーがんじゅう課	被保険者証返還、認定申請取下げ申請等 計8手続	6手続
障がい福祉課	障害手帳返還、重心医療資格喪失等 計22手続	12手続
子育て応援課	児手未支払請求、受給者資格喪失等 計15手続	-
市営住宅課	退去届、入居承継申請等 計3手続	-
6課合計	合計73手続	合計29手続

- ・ワンストップ化を行うため、原則予約制の導入を検討しています。
- ・ワンストップできない手続についても申請書を自動作成し、関係課へ案内します。

・待ち時間なく、丁寧な対応ができるように、事前予約制の導入、専用窓口を設置することが決定

ワンストップや予約制など理想の運用に対応するため、Microsoft Access を使用して職員が内製したシステムを使用することが決定

利 用 者	お く や み コ ー ナ ー	関 係 課
 ①利用予約（ネット・電話）	 ②予約受付・手続の絞込み 各課への手続回答依頼	 ③予約確認・手続の確認 手続内容の回答
 ⑤おくやみハンドブック等で 必要書類を確認・準備	 ④各課からの回答確認 手続一覧表等の作成準備	
 ⑥来庁	 ⑦ワンストップ可能な手続の受付 ⑧その他の手続の申請書お渡し・案内	 ⑨受付・案内

<運用状況>

1. おくやみコーナーの稼働について

- 稼働開始 : 令和4年4月1日 (仮稼働: 令和4年2月1日～令和4年3月31日)
- 受付窓口数: 1か所 (2ブース)
- 予約枠数 : 8件/日
- 予約方法 : 電話、インターネット (LOGOフォーム)
- 業務内容 : 6課 73手続 (内、29手続がワンストップ可能)
- 令和4年度
事務年度

受付開始 令和4年2月1日
受付終了 令和4年3月31日

受付時間 9:00～17:00

受付場所 9

受付窓口数 1

受付窓口名 受付窓口

受付窓口名 受付窓口

姓名 田中 芳子 性別 女	
生年 昭和 20 年 生月 10 月 生日 10 日	
住所 東京都千代田区千代田 1-1-1	
職業 主婦	
電話番号 03-1234-5678	
印 鑑 欄	
本人印鑑	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	
代理人住所	
代理人職業	
代理人電話番号	
代理人印鑑	
代理人氏名	

2.おくやみコーナーの受付状況（令和4年度実績）

- 利用者数：1,563名
 予約あり1,322名、予約なし241名 月平均：130件
 ○おくやみコーナーでの所要時間：平均25分
 30分未満：78.2%、30分～1時間：21.4%、1時間以上：0.4%
 ○一人当たり手続件数：平均11件
 ○ワンストップ率：72%（全手続数におけるワンストップ可能手続数の割合）
 ○R4利用率：44.3%（全死亡者数におけるおくやみコーナー利用者数の割合）
 ※利用率は増加傾向にある。（令和5年4月→56.2%、令和5年5月→59.5%）

3.在庁時間の調査（短縮効果）※市民のメリット

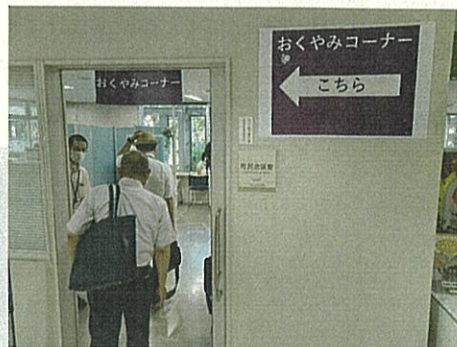
- 目的：手続全体に掛かる所要時間（在庁時間）の短縮効果を調査
- 期間：令和4年2月1日～令和4年2月28日
- 集計件数：18件
- コーナー設置前：2時間半～半日
- 結果：コーナー受付開始～最終課での手続完了までの所要時間（平均）：61分
（内訳）コーナーでの所要時間（平均）：28分
担当課での所要時間（平均）：33分
- 在庁時間の短縮効果も実証できている。

4.各手続のコーナー利用率の調査（業務効率化）※職員のメリット

- 目的：各課の窓口業務の業務効率化の効果を調査
○期間：令和4年2月1日～令和4年2月28日
●結果
- ・葬祭費支給申請（後期）：コーナー利用率42%（全129件/コーナー受付54件）
 - ・高額介護サ（ちゃー課）：コーナー利用率26%（全38件/コーナー受付10件）
 - ・身障手帳回収（障福課）：コーナー利用率24%（全45件/コーナー受付24件）
- ※コーナーへの受付指示回数をカウントしているため、実際の受付件数とはずれが生じる場合がある。

5.満足度アンケート調査

- 目的：利用者の満足度及び意見等を調査
- 期間：令和4年2月1日～令和4年2月28日
- 集計件数：47件
- 結果：満足度98%（満足46件、やや満足1件）
- 利用者からのご意見（抜粋）
 - ・23年前、母が亡くなった時には、複数の課を回り大変でしたが、今回おくやみコーナーにて一度で対応でき、大変助かりました。
 - ・どんな手続きが必要か事前に調べてくれたため、スムーズに手続きできた。とても良い施策だと思う。
 - ・おくやみコーナー窓口ですべての手続きが出来とても画期的だと思いました。
 - ・事前チェックリストを用いた丁寧な説明、待遇はとても素晴らしかった。
 - ・部署が違うので難しいとは思いますが、全ての手続きをまとめて出来たら助かります。
- 評価ポイント：①予約制による事前確認（準備）
②ワンストップサービス
③ハンドブックを使用した相談対応
- 今後の検討事項：コーナーで取扱う手続数
※関係課の意向も含め検討する必要あり



6.おくやみコーナー及び各担当の所感

- おくやみ担当：予約あり、なしのどちらでもトラブルなく対応できている。ご遺族の負担だけでなく、手続の多い担当課については業務負担も軽減できており、コーナーを設置してよかったと感じている。
- 障がい福祉課：遺族来課時、基幹系システムで本人確認、必要な手続の確認確認等の作業負担が軽減されている。
- ちゃーがんじゅう課担当：担当課に来課した場合でも、事前に手続が絞られているため、ヒアリングを省略できるなどの効率化も図れている。
- 国保課（後期G）：窓口業務について、おくやみコーナーとの連携による業務効率化が図れており、職員も少しずつ効果を実感できるようになっている。
- 子育て応援課担当：該当件数がほとんどないため、業務効率化や負担軽減の効果はみられない。
- 市営住宅課：該当件数が少ないため、業務負担の変化は感じられない。

7.おくやみコーナーの課題

- ①取扱い手続の精査（手続きの増・減）
- ②システムの保守管理（職員による保守継続/業務委託の検討）

<所 感>・・・土谷直樹

身近な方がお亡くなりになった後、遺族の方が手続きをどのようにすればいいのかわからず、大きな負担となっている。手続きをワンストップで行う那覇市の「おくやみコーナー」の取り組みについて学ばせていただきました。

ご親族をはじめ、身近な方が亡くなられるのは、辛く悲しいことです。そのような中、死亡に関連する手続きは多岐にわたり、複数の窓口に関わることもあるため、ご遺族の皆さまの負担もたいへん多いと思います。

このような状況を改善するために那覇市では、死亡にともなう諸手続きを行う専用窓口「おくやみコーナー」を、令和4年4月1日より開始されました。

内製した Access を活用し、毎日亡くなられた方のデータをシステムからダウンロードし、予約された方のデータを運用しています。必要な手続きを一覧にし、情報をもとに申請書の作成補助や、関係課への案内を行っています。手続きによってはワンストップで完了させるサービスであり、利用者と負担軽減となります。個人情報の相互利用可能な6つの課に対しては利用者の手続き漏れの無いようにしています。6つの課以外の課については受付時に聞き取りをして、手続きの案内を行っています。

また、おくやみコーナー開設とあわせて、死亡にともなう必要な手続きをわかりやすくまとめた「おくやみハンドブック」を、死亡届受付時に窓口で配布。ハンドブックは、市役所で行う手続をチェックリストで確認できるほか、必要事項や担当課の紹介、さらに市役所以外での手続き一覧が掲載され、広く活用できる内容となっています。おくやみコーナーとハンドブックの利用により、スムーズな手続きが可能となっています。

本市においても、亡くなられたご遺族の方がワンストップで手続きができるような取り組みが必要であるため、導入に向け参考になる事例だと感じました。

以 上

政務活動調査報告書

視察日	令和5年7月14日（金）
視察場所	沖縄県 浦添市
視察内容	浦添市てだこ未来応援員について
視察者名	土谷直樹
市の概要	面積：19.48 km ² 人口：115,230 人 人口密度：5,915.30 人/km ² 世帯数：53,091 世帯 経常収支比率：88.1% 実質公債費比率：5.4%

<浦添市の概要>

浦添市は沖縄本島南部、那覇空港のある那覇市の北、普天間基地を有する宜野湾市の南に位置しています。市域の東側は丘陵地で西側に向かって緩やかに傾斜し、東シナ海の海岸へ続いています。沖縄本島の南部地域と中部地域の境目にある市で、琉球王国の古都。市の総面積の14.3%が米軍基地となっている。浦添市内では経済活動の主力として「製造業」や「商業」、「情報通信業」などが挙げられる。



<経緯>

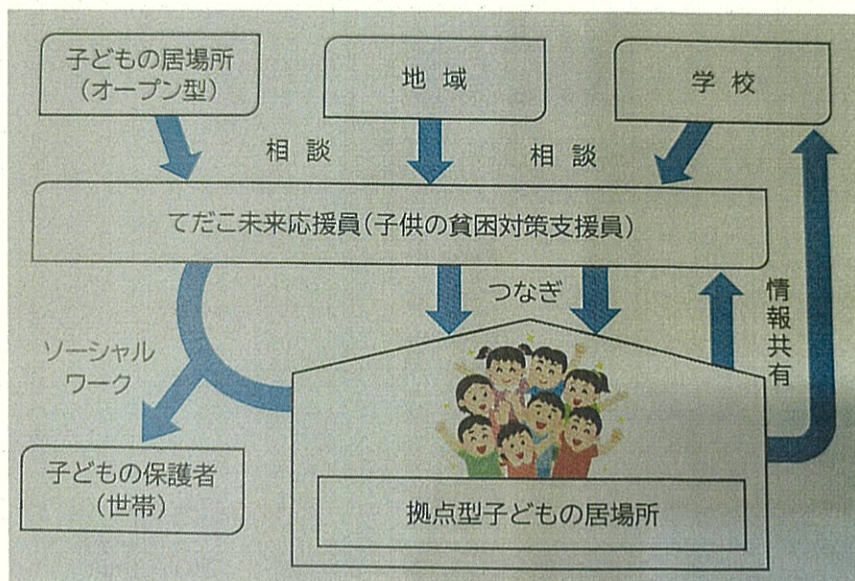
2015年10月に沖縄振興会議で沖縄県の子どもの相対的貧困率全国平均が13%であるのに対し2倍以上の29.9%であると発言。2015年12月に内閣府・沖縄県・市町村による意見交換会が開催され、沖縄子供の貧困緊急対策事業として10億円を計上。平成28年度予算閣議決定。2016年4月に沖縄子供の貧困緊急対策事業がスタート（6年間の時限）。2022年3月貧困率の改善はみられるものの、依然として全国平均との差は大きく、令和8年度まで延長。2026年3月までに19.8%を目標とした。



＜沖縄子供の貧困緊急対策事業＞

「子供の貧困対策支援員配置事業」とは、子どもの貧困は目に見えにくい問題であるため、現に困っていても支援に繋がっていない子どもたちが多々見受けられる。そのため、学校や地域に出向き、支援を必要としている子どもを見つけ出し、各関係機関と連携しながら適切な支援へと繋ぐ役割を担う支援員を配置している。

「てだこ未来応援員」とは、支援を必要とする子どもとその世帯を対象として、地域全体で支援を行っていくために、子どもや世帯への働きかけ、必要な支援・制度等へ繋ぐことで問題解決を図っていく役割を担ったソーシャルワーカー。市内の小・中学校区にてだこ未来応援員を計5名配置。浦添市こども家庭課に所属し、市役所から支援が必要な場所へ移動し活動している。



- ・ **支援が必要な子どもの掘り出し**・・・学校・行政地域・支援者等と連携し、支援が必要な子どもとその世帯の掘り起こしを行う。
- ・ **必要な支援へのつなぎ**・・・支援が必要な子どもなどに対する支援先・制度の調整、つなぎを行う。
- ・ **学校との連携**・・・学校と連携を図りながら、家庭訪問などを通して子どもに寄り添い、学校～地域の切れ目ない支援の仕組み作りを行う。
- ・ **子どもの居場所のサポート**・・・地域のニーズに応じた子どもの居場所を運営するためのコーディネートやアドバイスをを行います。

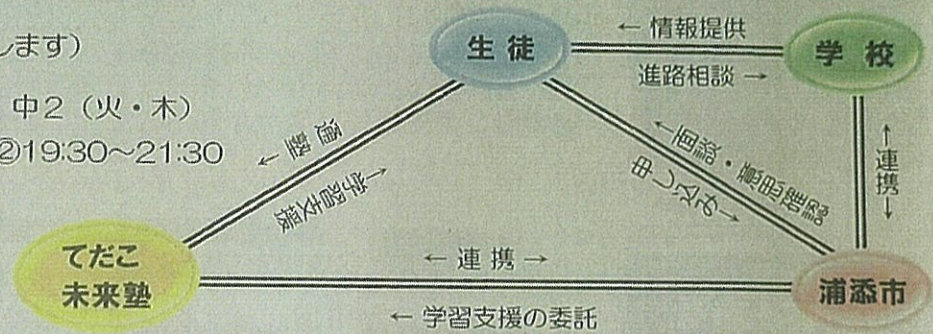
「子供の居場所運営支援事業」とは、子どもたちにとって学校や家でもなく、子ども自身がほっとできる場所のことで、機能として、「食事の提供」「生活指導」「学習支援」「キャリア等形成支援」などがある。子どもの居場所を運営する団体等に対して運営費を補助金として交付。**(こども食堂など)**

また、その他として、より手厚い支援が必要な子どもを受け入れる「拠点型子供の居場所 **(あすてっぷ浦添)**」、学習支援に特化した居場所として「学習支援型子供の居場所」もそれぞれ市内に1箇所設置している。**(てだこ未来塾)**

高校進学を目指すための中学生向けの無料塾。就職率は高く100%の実績。

これが『てだこ未来塾』です

対象	浦添市内在住で経済的な理由により塾に通うことが困難な中学生（3年生優先）
内容	高校進学を目的とした学習支援
場所	市内（面談時に案内します）
曜日 時間	中3（月・水・金） 中2（火・木） ①17:00～19:00 ②19:30～21:30
利用料	無 料
実施機関	浦添市



子どもの居場所連絡会運営業務

子どもの居場所の取り組みやノウハウの共有、居場所間のネットワーク形成、外部団体からの寄付受け入れ、地域における居場所の連携を図り地域社会との繋がりを促進。

その他

- ・児童福祉部門だけではなく全庁的な課題として取り込む
- ・資格取得と就職までを支援する事業の予算化

<所 感>・・・土谷直樹

浦添市での子どもの貧困対策への取り組みを視察しました。てだこ未来応援員の活動は、地域全体の子どもたちへのサポートにとどまらず、社会全体へのポジティブな影響を与えています。家庭訪問、学校との連携、そしてアウトリーチ活動を通じて、子どもたち一人ひとりの声を大切にし、必要な支援へとつなげている点に深く感動しました。

子供の居場所づくりにおいても、食事の提供や生活指導、学習支援、そしてキャリア形成支援など、幅広い活動を通じて子どもたちに安心と希望を与えています。これらの取り組みは、単に貧困の連鎖を断ち切るだけでなく、子どもたちの将来に向けた強固な土台を築く重要な役割を果たしています。本市においても浦添市のような取り組みを通じて、子どもたち一人ひとりが輝けるような支援体制の確立を目指すべきだと強く感じました。

以 上